



備えと減災がキーワード

JSCA東北
賀詞交歓会

日本建築構造技術者協会(JSCA)東北支部(加藤重信支部長)は1日、仙台市青葉区のパレスへいあんで新年賀詞交歓会を開き、多くの会員や来賓らが新春の門出を祝った。

加藤支部長は「昨年は災害が多い年だったが、大きな災害がいつ襲ってくるかわからない。そうしたとき

に構造設計者は何ができるのかを考えないといけない。そのキーワードは備えと減災ではないか。帰宅困難者を受け入れる施設の安全を診断することが災害への備えになり、減災では設計で建物被害をどう減らせるかだ。そうしたことを次世代に伝承していくことが全体的に減災につながる」とあいさつし写真。来賓祝辞に続き、井上範夫東北大学名誉教授の音頭で乾杯し歓談に移った。

交歓会に先駆け、北海道科学大学理事長・工学博士の苦米地司氏を講師に招き「積雪荷重は強化されるのか?—積雪荷重に関する告示改正の背景」をテーマに講演会が開かれた。